

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131015	学校法人名	慶應義塾		
大学名	慶應義塾大学				
事業名	地球社会の持続性を高める研究大学としてのブランド確立				
申請タイプ	タイプB	支援期間	3年	収容定員	34240人
参画組織	文学部、経済学部、法学部、商学部、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、商学研究科、医学研究科、理工学研究科、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、薬学研究科、経営管理研究科、システムデザイン・マネジメント研究科、メディアデザイン研究科、法務研究科				
事業概要	世界的な研究教育のグローバル化の潮流の中で、日本の近代化を先導してきた学塾としての慶應義塾を、地球社会の持続性を高めるグローバルな研究で世界を先導する研究大学へと脱皮させる。そのため、慶應義塾の核となる研究分野のプロジェクトの形成を目指した(1)長寿、(2)安全、(3)創造の三つの分野(クラスター)の研究を中心に据え、研究支援資源を集中的に投入し、グローバルブランドとしての慶應義塾のプレゼンスを高めていく。				
事業目的	<p>慶應義塾大学は、世界の研究教育のグローバル化の潮流の中で、これまで日本の近代化を先導してきた学塾から、地球規模の課題解決のための研究を先導する研究大学へと脱皮させる。既に開始しているスーパーグローバル大学創成事業(SG事業)の取り組みに加え、私立大学研究ブランディング事業(本ブランディング事業)の取り組みを行うことで国際化事業全体を加速させ、海外におけるプレゼンスを一層高める。この目的達成のために、学長直轄の新しい全学的な研究組織「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート:Keio University Global Research Institute(KGRI)」を設立し、国際的研究人材の獲得、国際共同研究支援など実施する体制を整える。そして、地球の持続性を高めるために本学が特に貢献できると考えている、(1)長寿、(2)安全、(3)創造の三つの研究分野(クラスター)に学内のリソースを集中投入する。</p> <p>本ブランディング事業はSG事業とは厳格に切り分けをしながら、密接に連動させて行う。慶應義塾大学は既にSG事業タイプAの大学として、さまざまな国際的な研究・教育活動を開始している。特にSG事業補助金では支出できない研究活動については、補助金を上回る自己資金を合わせるなどして、総合的な取り組み(以下「拡大SG事業」と記す)として推進している。そして、本ブランディング事業において、現在予算的な制約等により取り組みが遅れている、海外研究者招へい、物理的な研究環境(特に海外研究機関との遠隔共同研究用施設)の整備、研究成果のデジタル発信体制(ハード・ソフト)の整備などを加速させ、本学の研究活動におけるグローバルブランドとしての国際的プレゼンスを大幅に向上させることができる。</p>				

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131015	学校法人名	慶應義塾
大学名	慶應義塾大学		
事業名	地球社会の持続性を高める研究大学としてのブランド確立		
事業成果	<p>世界的な研究教育のグローバル化の潮流の中で、日本の近代化を先導してきた学塾としての慶應義塾を、地球社会の持続性を高めるグローバルな研究で世界を先導する研究大学へと脱皮させる。そのため、慶應義塾の核となる研究分野のプロジェクトの形成を目指した(1)長寿、(2)安全、(3)創造の三つの分野(クラスター)の研究を中心に据え、研究支援資源を集中的に投入し、グローバルブランドとしての慶應義塾のプレゼンスを高めていくことを事業目標として、3年度の事業として展開した。</p> <p>初年度は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)大学のグローバル化をより一層推進し、世界に貢献する国際研究大学となるための基盤として、各種規程を整備し平成28年11月1日に、「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI)」を設立した。設立に際して海外研究者を招聘して「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート設立シンポジウム」を開催した。 2)クラスター研究推進プロジェクトプログラム(長寿・安全・創造)の推進として、経常費を原資とする「クラスター連携研究推進プロジェクトプログラム」資金を用意し、「長寿」「安全」「創造」の各分野で、中核研究者が国内外の研究者からなる学際的プロジェクトを組織して、研究を国際展開するプログラムを実施した。平成28年度は、長寿3件、安全3件、創造6件のプロジェクトを実施した。 3)全学のWebを刷新し、国際的な研究成果公表システムと体制整備を推進した。 4)クロスアポイントメントによる海外副指導教授を80名雇用し、国際ネットワークの拡充を図った。 5)国際研究連携拠点を拡充し延べ25拠点とした。 <p>2年度目は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)KGRI主催による国際シンポジウムを継続的に開催。 2)クラスター研究推進プロジェクトプログラムによる第1期クラスター研究(長寿・安全・創造、平成27年度～29年度)の推進と研究成果の創出を図った。 3)Webコンテンツの選定・集約とグローバル公開のためのエディティング支援を実施した。 4)夏休み期間中に、世界中の研究者とのリアルタイム情報共有と意見交換のための通信情報環境整備として、グローバルリサーチラボを最新の映像、音声、通信規格に対応したプレゼンテーション機能を備えた施設として整備した。 <p>また、オープンラボとコラボレーションスペースに最新の映像、音声、通信規格に対応したプレゼンテーション設備を導入した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5)国際研究連携拠点のネットワーク構築を推進し、世界銀行最高経営責任者(CEO)講演会やLeading German University Representatives Visit Keioとしてドイツとの研究連携についての会議を実施した。 <p>3年度目は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)KGRIによる国際シンポジウムを継続的に開催した。 2)クラスター研究推進プロジェクトプログラムによる第2期クラスター研究(長寿・安全・創造、平成30年度～32年度)の推進と研究成果創出を図った。第2期クラスター研究はKGRIの基軸プロジェクトと位置づけ長寿1件、安全5件、創造1件のプロジェクトを実施した。 3)最新、最先端の研究に関する情報を発信するページとして「Research Frontiers」http://www.kgri.keio.ac.jp/research-frontiers/index.htmlを設けWebコンテンツの選定・集約とグローバル公開のためのエディティング支援並びに論文発表支援を行った。 4)若手研究者並びに大学院生へのインターネット等活用による論文指導の一環として、英語による研究業績の創出に係る経費を補助することを目的として、「英語研究業績補助」を開始した。 5)世界中の研究者とのリアルタイム情報共有と意見交換のための通信情報交換による国際研究連携拠点のネットワーク構築を推進し、国際的な研究・教育交流を図ることを目的として最先端の研究・教育に携わる方を国内外より招き、講演会を開催して、講演内容をアーカイブ化しKGRI Lecture Seriesとして広く一般に公開している。 		

研究人材育成としては、海外副指導教授を3つのクラスターに分類して雇用することで、大学院学生の論文指導等の指導を国際レベルで推進した。特にサイテーションに影響が大きい国際共著論文の執筆について各教員の協力を要請した。全研究科に拡大したことで、学生が国際レベルで指導を受ける事により、グローバル感覚を身につけ国際的にインパクトファクターが高くサイテーションが向上する論文を書く力をつける事が出来るようになった。海外副指導教授と学生、主指導教授との間での共同研究や共同論文などの成果も出ている。

クラスター研究推進プロジェクトプログラムは、3つのクラスターによる学際的研究を飛躍的に発展させる一環として、本学の核となる研究分野のプロジェクト形成を支援するものである。地球規模での持続可能性を問うような大きな課題の解決に向けてそれぞれの分野の研究を先導し発展させることで、結果として国内外の大型研究資金の獲得に結びつけて行く。同時に、優れた研究成果を国際共著論文として代表的国際誌に公刊するとともに、研究成果を広く発信し、海外の関係研究者とのリアルタイムでの研究交流・意見交換を進めて、本学の研究の真の姿を世界に広めると共に、サイテーションとレピュテーションも向上させることを目的とした学内研究助成制度として実施した。

クラスター研究推進プロジェクトプログラムでは①長寿(Longevity)クラスターにて「ハプティックライフログを用いた長寿基盤技術の創生」「NMN投与、百寿者バイオ・リソース活用、認知症病態モデル創出による老化制御法の構築」「長寿社会における社会経済と長寿関連技術の実証・規範経済学分析」をテーマに、②安全(Security)クラスターでは「アジア・太平洋地域のシステム:柔軟性・強靱性・安定性」「安全を実現するための技術・社会システム統合安全デザイン方法論の確立とその適用」「安全、リスク社会、メディア研究」をテーマに③創造(Creativity)クラスターでは「共進化するサイバーフィジカル環境の基盤技術構築・実証実験」「グローバルスマート社会創造プロジェクト研究」「西洋初期印刷本の書誌学的研究成果を統合する画像付きデータベースの構築」「光で免疫を活性化する「レーザーアジュバント」で安全なワクチン接種を実現する」「多言語検索型社会データ・アーカイブの創造と利用」「量子コミュニティ」をテーマに、教育研究が進められた。

今後の事業成果の活用・展開

ブランド各一に向けた全学的な認識周知については、慶應義塾の中長期計画において中長期計画≧スーパーグローバル事業と位置づけ、核となる学際的研究クラスター「長寿」「安全」「創造」の発展、開かれた学塾としての人材育成のさらなる強化を目標として掲げ、2015-2016年を第Ⅰ期中期計画期間、2017-2019年を第Ⅱ期中期計画期間、2020-2023年を第Ⅲ期中期計画期間とし、それぞれにグローバル化の施策である中期計画と毎年度の事業計画を予算と紐付けて設定している。すなわち、複数年にまたがる予算の優先配分を行うべき重点課題を設定し、実行しPDCAサイクルによる運用を開始している。

今後、本事業で整備した環境を活用して、本事業で整備・確立したプログラムを展開して、慶應義塾大学の関連する教育研究分野と密接に協力しながら、「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターにより文理融合研究や領域横断研究を推進し、その成果を広く国際的に発信することによって、「実学(サイエンス)」によって地球社会の持続可能性を高めること、および上記の事業にふさわしい人材を育成し、それにより、国際研究大学として世界に貢献する慶應義塾のグローバル化をさらに推進して行く。

国際的な研究成果を大学のブランディングにつなげるため、研究成果をホームページやSNSなどで、動画なども活用して広く公開している、また、国際発信力を高めることを目的としたインパクトファクターの高い論文誌への投稿推進補助や、論文データベースを活用した関連海外研究者への研究成果情報配信も引き続き展開して行く。

現在、ブランディング構築のため、世界大学ランキングへの対応の一貫としてレピュテーション向上のために世界二大ランカーであるQS社からコンサルタントを受けて国際研究拠点のネットワーク構築に向けた対策を行っている。世界大学ランキングは、ランカーが設定する項目に大学が回答した数値を元に、ランカー自身もデータと合わせて独自の基準や手法に基づいて算定されるため、公開情報だけでなく、非公開データを活用することにより本学に対する評価状況を詳細かつ客観的に把握し、本学のIR(Institutional Research)の一環としての研究・教育の向上に資する調査・分析のために活用していく。

最新のデータでは、2020 QS World University Ranking では世界で200位、アジアで41位、日本で10位となっている。